

# しが国際協力親善大使レポート

たしま たくや  
田島 卓弥さん

隊次：2019年度1次隊

職種：青少年活動

派遣国：ミャンマー

## 自己紹介

兵庫県神戸市生まれ、滋賀県大津市育ち。大学にて社会福祉学を学び、社会福祉士の国家資格を取得。卒業後は福祉関係の仕事に勤務。2019年8月よりミャンマーへ派遣。協力隊には現在の職を休職し、籍を置いたまま参加しています。

## 国、地域について

ミャンマーは東南アジアに位置し、インド、バングラデシュ、中国、タイ、ラオスとの5か国と接しています。日本の約1.8倍の面積を有し、人口は約5,000万人、公用語はミャンマー語です。首都はネピドーという都市ですが、旧首都であるヤンゴンがミャンマーで国内最大の都市です。国内には135の民族がいるとされており、仏教徒が約90%とされています。町の至る所にパコダという仏塔があり、ミャンマーの人々が寄付をしたり祈りを捧げたりする姿が見られます。気候は北部と南部で異なりますが、南部に位置するヤンゴンは年間平均気温が約27度と一年を通して暑いです。

ミャンマーは2011年に長く続いた軍事政権からの民主化を果たし、様々な国から企業の進出や支援の受け入れなどを行っています。今後さらなる発展が見込まれています。

## 活動や生活について

### 活動

私は国内最大の都市ヤンゴンの中のタンリン群区という地域にある、タンリン少年訓練学校という場所で活動を行っています。この施設には保護されたストリートチルドレンと犯罪に関与し裁判所の判決を待つ少年たちが収容されています。私の活動の目的は子どもたちが心身ともに健全に成長できるよう相談業務を行うこと、プログラム等を考え実施することです。子どもたちは育ってきた環境もあり、様々な問題を抱えています。また、それに対応するための制度やシステムも十分とは言えません。それらを改善し、子どもたちにとって良い環境を施設職員の方々と作り上げていく必要があります。とはいえまだ赴任して2か月程度のため、今は子どもたちとできる限り多くの時間を一緒に過ごし、職員の方々とコミュニケーションをとりながら関係づくりに励んでいます。文化や価値観の違いから衝撃を受けることも多々ありますが、少しずつ取り組めることから実施していきたいと思っています。

### 生活

活動日以外はヤンゴンの町の中心へ出かけることが多いです。ヤンゴンにはミャンマー仏教の聖地とされているシュエダゴンパコダや大きな市場であるボージョーアウンサンマーケットなどがあり、

観光客も多く訪れています。大きなスーパーマーケットやおしゃれなカフェもありますが一方で、ローカルな市場や露店なども多いです。ローカルなお店で慣れないミャンマー語を使いながら買い物をしたり食事をしたりすることも楽しみの一つとなっています。外出の際は民族衣装であるロンジーを着用することが多いです。ミャンマーでは多くの人が民族衣装を普段着として着用しています。様々な色や柄があり、選ぶのに苦労するほどです。

ミャンマーにきて約4か月が経ちました。まだまだ現地に馴染めたとは言えないと思いますが、少しでも早くそう言えるよう、様々なことに取り組んでいきたいと思っています。



ミャンマーの国民食モヒンガー。米の麺を使用し、ナマズなどの魚からだしをとっています。



市場で売られている民族衣装のロンジー（男性用）。一枚の布をが輪っか状に縫ってあり、腰に巻いて着用します。



活動先にて。最近は掛け算のかたを作成し、子どもたちと遊んでいます。子どもたちの学力向上に少しでも寄与することができればと考えています。



シュエダゴンパゴダ。連日多くの人々が訪れています。お祈りの際は生まれた日によって決まる曜日（八曜日）ごとにお祈りをします。